



富岡地区は中富、十四軒、フラワーヒル、神米金、所沢新田、北田、岩岡、三商北中、向陽ハイツ、下富、武野台、ネオポリス、郊外マンション、さつき台、上岩岡、北中、東海、エステシテイの18地区で構成されています。

巻頭言

富岡地区環境推進員協議会 会長 塩谷 一夫

「東京」は、今年も、綺麗で、清潔で、住み良い都市として、他の大都市を凌駕、世界一にノミネートされました。来日されたアメリカ人、カナダ人他の所謂外国人に言わせると、東京だけでなく、地方都市の何処に行っても、綺麗で、清潔で、住み良い環境が整っているとして驚嘆しておられました。

この裏づけに就いて、私が、当協議会の会長に就任して、地方都市、例えば、「所沢市」の場合、行政が先頭に立って、環境整備に懸命に注力している事が判りました。歩きタバコ防止条例、「埼玉県」の場合、ごみ散乱防止条例などが、その一例であります。

くぬぎ山保全管理の為、清掃活動に参加して、所沢市が、希少動物、「おおたか」などの生息保全維持の為、多くの「くぬぎ山」、「里山」を公有地化し、「自然の緑」を保全管理する努力を知りました。人口、約340千人の所沢市内の一般家庭から排出される大量のごみを回収、焼却するシステム、即ち、「東部クリーンセンター」、「西部クリーンセンター」の存在を知りました。最近、富岡地区環境推進員協議会で、「東部クリーンセンター」を視察研修し、所沢市側の環境に対する前向き姿勢を知りました。綺麗好きな日本人の性格と相俟って、各自治会と地方行政の懸命な努力、ハーモニーが、結実し、外国人が驚嘆している「綺麗」で、「清潔」で、「住み良い」環境が出来上がっているものと思います。今後共、「富岡地区環境推進員協議会」と地域行政「富岡まちづくりセンター」と良質なハーモニーが奏でられる事を心掛けたいと思います。

●環境講演会に参加して

「ほんとうの環境問題」 講師 生物学者 早稲田大学教授 池田 清彦氏

上岩岡自治会環境推進員 田村 幸弘

この環境講演会に参加するのも3回目。毎回、沢山の勉強をさせていただくことができます。今回も月末の忙しい中ではありましたが、会社でも環境を推進している立場でもあることから、環境問題について学ぶとの理由を使い参加しました。

今回の講師は、フジテレビ「ホンマでっかTV」(私は見たことがありませんが・・・)にも出演されているからか、回を重ねるごとに認知度が増してきているのかは不明ではありますが、会場内は多くの方で埋め尽くされておりました。早速、中身の話をしたいと思います。

冒頭の中で言われていたのが、「環境」の定義として誰(何)に影響を与えるものであると言える。その中で人間がコントロールできるものに対して問題としてとらえる必要がある。例えば自然に発生する問題は、環境問題として考えることにはなりにくいとのことでした。

人口増加により、資源の不足が発生するため、環境へのダメージを受けることになっている。日本においては、戦後食料自給率は80%であったが、現在は39%であり、エネルギー自給率は何と4%でとても少ない。日本の環境問題は、低コストでエネルギーを如何にして確保するかを考えるのが重要。

エネルギー源である石油は、アメリカのシェールガスの開発により価格が安くなってきている。石油は低コストで供給が可能であることから今後も主要なエネルギー源であるとのこと。日本は火山国でもある為、地熱発電がコストの面でも有力であるとのことでした。知見を広げるといった意味では、有意義な時間を過ごすことが出来ました。



[写真提供：所沢市環境推進員連絡協議会]



[写真提供：所沢市環境推進員連絡協議会]

◆孫・子に残そう「くぬぎ山」 (くぬぎ山再生活動に参加して)

富岡地区環境推進員協議会 副会長 松田 征郎



今年度もくぬぎ山保全管理活動が埼玉県主催で平成27年9月27日に実施されました。参加人数：未就学児童、小・中学生を含めて100人弱でした。



作業内容は外来植物(セイタカアワダチソウ、菊芋：別名アメリカイモ)、在来植物(葛：クズ)の除草です。私は今年初めて参加しました。



くぬぎ山は川越市、所沢市、狭山市、三芳町にまたがる約152haの大規模な平地林です。県と地元3市1町で都市近郊に残された貴重な緑地空間であるくぬぎ山

地区の緑地を保全し未来の世代に引き継ぐための活動です。

くぬぎ山のある三富地域の平地林は江戸時代の新田開発に伴い、農用林として作られ、300年以上の間、農家による落ち葉掃きや定期的な伐採更新により維持されて来ました。然し、この平地林は農用役割の変化、所有者の変動などで、産業廃棄物関連施設や資材・残土置き場、倉庫などの建設のために伐採や荒廃が進み、動植物の生息環境を脅かし、生物の多様性の低下を招くことが懸念されています。

都市部に残された貴重な生物の生息・生育空間であるくぬぎ山を昔の姿で子供達や孫達に残してあげたいものです。再生を阻害する植物は根絶やしする必要があり、根っこを抜かなければならず、作業としてはちょっと大変です。

作業対象域の3分の1しか終わることが出来ず、達成感は今一歩でした。しかし、いい汗をかくことができました。できるだけ多くの人に参加して貰えるよう、啓蒙活動が必要ではないかと思えます。皆様も次回は、子供さん、お孫さんを連れて参加してみませんか。草木を通して日頃と違う接し方が出来ること請け合いですよ。

私も環境推進員を辞めても、足腰の丈夫な間は参加したいと思っています。

最後に、同じ町内会の森さんが「エコネットとみおか」として、20年弱前から活動され、過去に何回も「富岡・



エコ・広報」にも掲載されております。

孫子にいい環境と言う財産を残してあげたいとの熱意が伝わって参ります。

〈埼玉県ホームページ引用〉

◆石坂産業の視察研修(10月6日)

北中自治会環境推進員 市島 美津子



【写真提供：石坂産業株式会社】

みなさん、覚えていらっしゃいますか！1999年ダイオキシン問題で「所沢のハウレンソウは

危険！」とマスコミで大バッシングを受けた事。当時、産業廃棄物焼却炉を稼働していた石坂産業では、「地域で必要とされていない会社であってしょうがない」との創業者の一言で完全撤退。

廃棄物を細かく選別してリサイクルするプラントを新たに建設し、「優れた装置を活かすも殺すも人次第」



【写真提供：石坂産業株式会社】

ということで総合マネジメントシステムの国際規格を三つ(環境・品質・労働完全衛生)を同時に取得し、それを

もとに人材教育にも活かしているとの事。

私たちを迎え入れて下さった当日、その教育がしっかりと活かされている事に驚きました。敷地に入った時からそれぞれの持ち場で気持ちよく挨拶しておりました。

廃棄物は、コンクリートからプラスチック、木材等が5棟に分けてられ、次の資源に生まれ変わるのを待っておりまして。また、プラント内の温度を一定にするために屋根には省エネ効果の高い遮熱塗装やスナ苔で屋上を緑化。表面積の10%に明りとり窓を設置。

工場地下には雨水貯留槽を設置し散水やトラックのタイヤ洗浄に使用するなど環境に配慮した対応を行っていました。

人不足で手入れの行き届かない近隣の林を借り受けて「くぬぎの森環境塾」として草木や小鳥、昆虫等の保護にも努めていることには感銘を受けました。

私達の子供の頃に比べ生活も風景も随分と変り便利な世の中ではありますが、便利さに慣れすぎて足元を見失わない様、100年先の子供達に最大限の自然を残さなければと改めて自覚した一日でした。

●生ごみ減量・資源化講演会(エコカラット)に参加して

東海自治会環境推進員 名雲 香子

平成 27 年 12 月 1 日に生ごみ減量・資源化講演会で「生ごみカラット」が紹介されました。

所沢市の燃やせるごみは円グラフ(下図 燃やせるゴミの中身)に示したように43%が生ゴミです。そのうちの約80%は水分ということです。

水分が多く含まれている生ごみは、お茶殻、野菜や果物で水分の多いきゅうり、白菜、キャベツ、大根等は90%以上が水分です。

生ごみをちょっと絞って水切りを行うことで、約1割の減量ができ、乾燥させると3割減量することができるそうです。

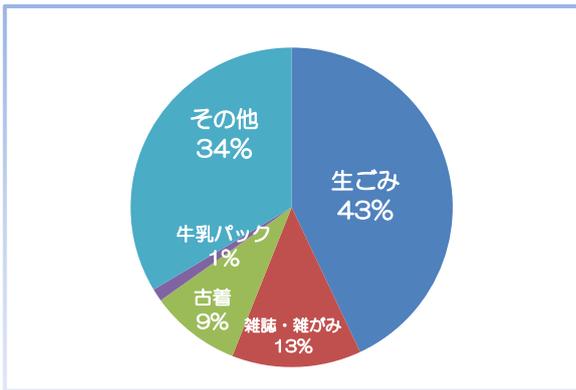


図 燃やせるゴミの中身

乾燥させることによって水分が含まれている生ごみに比べ、乾燥させた生ごみは、運搬や燃焼がしやすくなるため、エネルギーの節約になります。



【通気式生ごみ保管排出容器「生ごみカラット」】



【水切りした生ごみを新聞紙に包んで風乾する方法】

させる事が出来ます。

カラットの良い点は・カラスや猫の被害がなくなった事、・台所に生ごみを置かなくなったこと、・可燃ごみに生ごみが入らなくなったので可燃ごみが軽くなりゴミ出しが楽になったという事でした。

私も講演会でごみカラットを配られたのでさっそく試してみました。

今回、この生ごみの水分を簡単に乾燥させる「生ごみカラット」(左写真)という容器が紹介されました。

生ごみ乾燥のポイントは台所での生ごみを水に濡らさない事です。

新聞紙を活用し、水分を発散し易くし、風通しの良い所に置くことで生ごみを乾燥

実際、生ごみの悪臭がなくなり、台所が快適になりました。また、生ごみが乾燥しているので軽くなり、ゴミ出しが楽になりました。

町内会の集積場で始まったカラス騒動から生ごみ資源化に取り組み始めて9年になるという生ごみカラットを紹介して下さった菊一さんは、自治会の皆さんが現在は工夫努力を楽しんでやっていることを生き生きと話されているのが印象的でした。

皆さんも簡単にできる身近なエコとして試してみてくださいは如何でしょう

【生ごみカラットの問い合わせ先】

NPO 法人 生ごみリサイクル全国ネットワーク

TEL&FAX : 03-3483-3761

URL : <http://grnj1437.sakura.ne.jp>

◆「デロリアン」が何故エコプロの展示場に？ (エコプロダクツ2015を視察して)

富岡地区環境推進員協議会 副会長 松田 征郎



12月10日に東京ビックサイトで開催の「エコプロダクツ2015」を視察しました。「エコプロダクツ2015」とは環境先進国日本の取組や先端技術を世界にアピールする機会となる環境関連製品、技術、取組などの展示会です。

この会場で30年前(1985年)のマイケル・J・フォックス主演の映画「バック・トゥ・ザ・フューチャー」にマーティ、博士ドクと共に登場した当時のスーパーカー「デロリアン」(タイムマシン)に出会いました。マーティとドク博士を乗せて過去へ、未来へとタイムスリップするシーンが皆様も記憶にあることと思います。「デロリアン」が何故エコプロで展示されているのか疑問を持った次第です。

展示の理由が分かりました「ごみをエネルギーにして走る車」だからです。「ごみの再利用」を30年前に発想していたとは、アメリカの想像力の豊かさに驚かされました。日本の自動車メーカーでは競ってエコに取り組んでいるのが目につきました。地球温暖化に対応したCO₂を出さない「水素で走る燃料電池自動車」、「プラグインハイブリッド車」や「電



展示の理由が分かりました「ごみをエネルギーにして走る車」だからです。「ごみの再利用」を30年前に発想して

いたとは、アメリカの想像力の豊かさに驚かされました。

日本の自動車メーカーでは競ってエコに取り組んでいるのが目につきました。

地球温暖化に対応したCO₂を出さない「水素で走る燃料電池自動車」、「プラグインハイブリッド車」や「電

気自動車と呼ばれる燃料電池車」などの展示です。

世界一の自動車メーカーが水素自動車を他社に先駆けて開発し、水素ステーションなど社会インフラと合わせて、実現に向けた努力をしていることは、皆様が周知のとおりです。



富岡地区環境推進員協議会の視察研修先でもありました「石坂産業」も展示ブースを設けておりました。

また、昨年度の環境講演の講師でもあります「C・W・ニコル氏」も企業とタイアップして展示ブースを設けていました。

ビジネスショー、その他の展示会等と異なり、小学生、中学生、高校生の見学者が多いことに驚きました。

私は初めての視察で過去のエコプロとの比較はできませんが、環境、エコは学校教育の身近な題材として適しているのだと思います。中でも「全農」のブースに小・中学生の多いのが目につきました。

私は初めての視察で過去のエコプロとの比較はできませんが、環境、エコは学校教育の身近な題材として適しているのだと思います。中でも「全農」のブースに小・中学生の多いのが目につきました。

“全農「田んぼ」ミステリー 笑味ちゃん刑事と謎を追え！”～田んぼが守る自然や生きもの、お米の持つチカラについて、楽しく学ぼう！～の看板とアニメティックなイラストで小・中学生の目を引くような演出をしていました。



田んぼの作付面積が減少する中で、兵庫県のJAたじまが手がける「コウノトリを育む農法」や「田んぼの生きもの調査」などを通じて、田んぼが環境や生態系の保護に役立つことを紹介していました。

出展者も日本を代表する大企業から中堅・中小企業、行政法人、地方公共団体

(県、市町村)、大学、専門学校、高校、中学校、小学校までと広範囲にわたり、また内容も多岐にわたり、紹介しきれません。

時を同じくして、世界的にはCOP21(国連気候変動枠組み条約第21回締約国会議)がパリで開催されており、環境への関心が高まり、例年以上の来場者ではないかと思えます。大変意義深いエコプロダクツ2015の視察でした。

<エコプロダクツ2015公式ウェブサイト引用>

●もったいない市と緑化基金

エステシティ自治会環境推進員 関根 光治

2008年、秋に始まったエステシティと中富自治会共催のもったいない市は、2015年10月で15回目となりました。身の回りの衣服などでサイズが合わなくなり捨てるのはもったいない。

古着として再利用。この時一点ごとに100円の寄付を願っています。

再利用に適さないものは、ファイバーリサイクル(*1)、資源化に仕分けします。不用になった陶磁器も、再利用可(リサイクル)、資源化に仕分けします。再利用可と判断した衣類、陶磁器はホールの壁面、卓球台などへ陳列します。

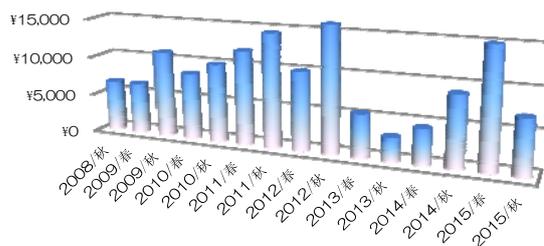
これらの手順は、すべてマニュアルで標準化されております。

戴いた寄付金は全額、「市の緑化基金」に寄付しております。この度、この寄付行為に対し、「平成27年度環境ボランティア表彰」(*1)を受賞しました。

再利用の申し込みのなかった品々は、東部クリーンセンター内にある「リサイクルふれあい館」のもったいない市で古着として頒布しています。他は古着として海外に輸出されます。

ファイバーリサイクルに仕分けされたものは、フェルト製品に加工されます。陶磁器は資源として活用されます。このもったいない市は、年2回開催で今後も継続されます。

緑化基金への寄付金



(*1)ファイバーリサイクル：古着・古布を回収しリサイクルすること

(*2)表彰者は以下の通り

エステシティ自治会 生活環境部 会長 関根光治 他11名
中富自治会 環境部 部長 小島唯志 他5名

～編集後記～

最近、車をハイブリッドカーへ乗り換えました。これも環境推進員としての意識からなのでしょうか？

地球環境を良い状態で後世に残すのは現世で生きる私たちの使命であると考えます。小さなことかもしれませんがCO₂の削減など一人ひとりの意識から始まるものと考えます。

この度、以下のURLから富岡・エコ広報を閲覧することを可能にしました。是非ご覧ください。

<http://www.town-tomioka.click/kankyo/>

(上岩岡環境推進員 田村幸弘)

